

平成19年度 学校自己評価表		学校番号	81	学校名	松本筑摩高等学校(全日制)	学校名	松本筑摩高等学校全日制	学校番号	81
教育方針		今年度の重点目標			成果		評価	来年度に向けて	
①生徒一人一人の学力の向上を図る。 ②自らの行動に責任を持ち、他人を尊重し、社会連帯を重んずる態度を涵養する。 …この目標実現のために「教える」と「育てる」ことのバランスを保ちながら、生徒たちへの教育活動に励むこと。		教職員一丸となって <b>在校生全員の卒業</b> をめざす。 …欠課数を減らす生徒指導に心がける …内容豊富な総合学習を展開する …授業の創意工夫に努める …生徒と語り合う時間を増やす			○3年生進路先全員決定…フリーター・ニートは0 ○退学率…2.3%(昨年度10.3%) ○朝の読書週間…初めての試み 3回実施 ○授業公開週間…年2回 すべての教科で実施 ○生徒会執行部…学校全体の核となる集団作り ○修学旅行の成功…事前学習と文集作りの創意工夫		B	○最後の学年となる82名の生徒たち全員を卒業させること。 ○閉課程の年として、全職員が82名の生徒とともに多くの同窓生を巻き込み、2月22日の記念イベントを成功させること。	
対象	評価項目	評価の観点		成果		評価	来年度に向けて		
3学年	①学びの大切さを実感させるための学習指導	①日々の学習に意欲的な生徒が20名を超えたか …放課後の学習会(314番教室)への参加者		①2年次までに比べて前向きに取り組む生徒が出てきた。 …2月の特別編成授業の参加者は34名		B			
	②全員に自信を持たせて卒業させるための生徒指導	②欠課数を限りなくゼロに近づけることができたか		②1名の生徒のみ多欠課で転籍となったのが残念であった。		B			
	③全員が喜びの明日に向かって進めるような進路指導	③第一希望の進路を実現させることができたか		③就職・進学ともに卒業生全員の進路は決定した。		A			
2学年	①生徒の筑摩全日制への帰属意識を高め、学校生活の充実をはかる	①保護者・OB・地域・地元上級学校との連携ができたか		①OBによる激励講演会、学年独自の春の遠足や百人一首大会開催。保護者・地域との連携は今一歩だった。		B	全日制最後の年、更にOB・保護者・地域との連携を深め「筑摩全日制で良かった」という思いで卒業させたい。		
	②就職、進学に向け生徒の進路意識をより深めさせる	②進路ガイダンス4回以上、OB社会人講話を実施したか		②学校内外の進路ガイダンスを7回実施できた。		A	4月のモチベーションを持続させ、希望の進路を実現させる。		
	③事前学習を充実させ、修学旅行を成功させる	③全員の参加をめざし、生徒満足度90%以上の中身だったか		③松代大本宮見学等4月からの事前学習実施、文集作成		A	1学年だけでも楽しめる学校生活の充実をめざす。		
生徒指導	①退学者をなくすための係としての取り組み	①怠学傾向の強い生徒への指導に担任とともにかかわることができたか		①退学者4名 転学者1名 転籍者2名		B	不登校傾向や遅刻が多い生徒への対応を工夫したい。		
	②事後指導の充実	②粘り強く指導し、反省補充課題を完了させることができたか		②時間はかかったが、ほぼ完了させることができた。		A	粘り強く指導し、早目に完了させるようにしたい。		
進路指導	①大学受験指導の強化	①センター試験の受験者を増やすことができたか		①センター試験受験者1名 公立短期大学合格者1名		B	センター試験・一般受験で合格する実力をつけさせたい。		
	②フリーター・ニートを減らす	②0%に近づけることができたか		②達成することができた。		A	来年度も引き続き指導していきたい。		
	③進路情報の提供と資料の活用	③進路ニュースの継続的な発行ができたか		③連絡事項だけで、目標を達成することができなかった。		C	来年度の重点目標として是非とも達成したい。		
	④松本大学との連携授業	④昨年度以上の連携授業を実施できたか。(8時間以上)		④3つの授業で10時間実施できた。		A	定時制の連携授業を実施したい。		
	⑤「ずく出せ修行」就業体験	⑤新たに就業体験をする生徒が出たか(5人以上)		⑤就業体験者数:10名		A	新たな分野(保育・福祉分野以外)での体験者を増やしたい。		
学習指導(総合学習)	①各種資格・検定試験への受験者指導の充実	①受験意欲を掻き立て、受験者・合格者を増やせたか		①ワープロ検定(30名)漢字検定(10名)歴史能力検定(1名)		A	一層受験者を増やすこと。英語検定の受験者も出したい。		
	②授業評価を実施し、授業改善に活かす	②年2回の授業評価を行い、授業の改善に努めたか		②計画通り2回実施。(7月上旬・11月中旬)		B	より実りある授業改善に取り組むたい。		
	③活字に親しみ、表現力を向上させる指導の充実	③朝の読書週間の実施(年3回) 小論文・作文指導の内容を工夫できたか		③3回実施…読書に向かう雰囲気と姿勢を作り出せた。 表現力を養うための機会となった。		A	この実践を活かし来年度も引き続き実践したい。		
生徒会	①委員会活動の活性化	①当初の計画通りの活動ができたかどうか。		①具体的な計画を立案して、活動できた。		B	来年度も①～④を目標としたい。		
	②文化祭の展示、発表内容の充実	②どのくらい創意工夫されたのか		②2つの学年での開催であったが、創意工夫で充実した内容となった。		A	最後の1学年での活動となるが、少人数だからこそ可能になることもあるので、生徒会活動を益々盛んにしていきたい。		
	③部活動の充実	③限られた条件の中で活動は充実していたか		③運動部はバドミントン部を中心に一生懸命活動した。		B			
	③生徒会活動の広報	④生徒会への関心を高めることができたか		④広報紙やポスターなどで関心を高めた。		B			
環境美化	①有意義な年2回の「環境の日」	①「特別な美化活動の日」とすることができたか		①閉課程を前に関係各所の片付け・大掃除が良くできた。		B			「立つ鳥あとを濁さず」の意気で校舎内外をきれいにしたい。
	②美化委員が率先して行う校内清掃	②清掃の意義とマニュアルを全校生徒に伝えられたか		②一部委員の頑張りは伝わったように思う。		B	生徒一人ひとりが意識を持って取り組める組織作りを考えた		
	③「もったいない運動」の徹底	③例えばカーテンの繕いなど使える物を活かす意識づけができたか		③全体の取り組みとして方法を考えていきたい。		C	具体的な運動の一つでも実践してみたい。		
校内研修	①校内公開授業の実施	①年2回以上、公開授業を実施することができたか		①2回実施。すべての教科で授業を公開した。		A	全教科で全職員の授業を公開できるよう計画していきたい。		
組織運営	①課題に対する連携と協力体制の確立	①学年・係・教科の枠にとらわれず、連携し協力する場面を増やせたか		①学年が2つという特殊な状況下、全職員で課題に取り組むことが出来た。		A	定時制と連携を図りながら、諸課題に取り組んでいきたい。		
	②係分担と仕事内容の効率化	②校務分掌の枠組みを見直し、合理的かつ効率的な運営ができたか		②学年会と職員会とがバランスよく機能し、効率的な運営ができた。		A	1つの学年のみという特殊な状況を全職員の協力で乗り切り		
PTAとの連携	①学校行事への参加者数 …教育振興会・夏の奉仕作業・強歩大会・地区P	①例年以上に呼びかけを工夫して参加率を高めることができたか		①2つの学年のみではあったが、各行事参加率を高められた。 地区P実施せず。		A	最後の学年PTAとして、また教育振興会を支える最後の全日PTAとして、有意義な活動をする事。		
	閉課程 記念事業	①記念碑の設置に向けて準備を進めること	①製作者・設置場所・製作費用などを決めることができたか		①3月中旬 自転車置き場前に設置することができた。		A	①来年度 2月22日に除幕式を行うこと。	
②記念誌の構想と原稿収集		②80%完成することができたか		②70%完成することができた。		B	②同窓生の寄稿を増やすことが課題である。		
③同窓会の閉課程準備実行委員会の開催		③年5回以上開催することができたか		③3回実施した。		B	③2月22日(日)記念イベントを成功させること。		